

## 夕張の歴史

1874（明治7）年、アメリカ人鉱山地質学者ベンジャミン・スミス・ライマンの探検隊が、夕張川中流までの地質を調査し、上流部での石炭の存在を示唆しました。その後、1888（明治21）年、道庁技師の坂市太郎が、夕張川支流の志幌加別川上流（現在の博物館敷地内）で石炭の大露頭を発見したことから、「炭鉱の街・夕張」の歴史は始まりました。

豊かで高質な石炭を背景に北海道随一の炭都として栄え、一時は大小24の炭鉱、人口約12万人を数えました。しかし、1960年代に入るとエネルギー革命によって次々に閉山し、1990（平成2）年には最後の炭鉱の灯が消えました。

炭鉱にかわって、夕張の顔となったのが「観光」です。かつての炭鉱跡地を利用し、1983（昭和58）年にグランドオープンした「石炭の歴史村」をはじめ、Mt.レースイスキーリゾートやホテルなどの大型観光開発、ゆうぱり国際ファンタスティック映画祭をはじめとするイベント、全国的にその名を知られる夕張メロンの生産などをもとに、新たなまちづくりに着手し、一時は北海道に数ある元炭鉱都市で最も活性化された街として注目されました。

しかし、人口の流出に歯止めをかけることはできず、観光振興などに対する赤字補てんによって財政状況が著しく悪化した結果、2007（平成19）年には財政再建団体となり、財政の健全化に取り組むこととなりました。

2017（平成29）年からは、財政再生計画の抜本的な見直しを行い、これまでの財政再生を継続しつつ、地域再生に向けた新たな取り組みを進めています。

## 日本遺産「炭鉄港」

2019（令和元）年5月、「本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～」が日本遺産に認定されました。

炭鉄港は、今日の北海道を築く基礎となった三都（空知と室蘭・小樽）のつながりをクローズアップし、人と知識の新たな動きを作り出そうとする取り組みで、NPO炭鉱の記憶推進事業団が各地と連携して2010年から展開してきました。

日本遺産のストーリーを説明する構成文化財50件のうち、夕張市には7件があります。石炭博物館は、炭鉄港の基本である石炭産業を理解するための中核的な施設として、空知と小樽・室蘭、空知各都市とを結ぶ重要な役割を担っています。石炭博物館を入口に、炭鉄港を手がかりに…今日の豊かな暮らしの成り立ちや未来について考えてみましょう。

## 開館時間

9月まで 10:00～17:00  
10月以降 10:00～16:00  
※最終入場は閉館の30分前

## 休館日

火曜日  
※GW・お盆・祝日は火曜日も開館  
冬期（11月上旬～4月下旬）

## 入館料

（2025年4月現在 消費税込）

一般 大人	1,200円	中学生以上
小学生	400円	
団体 大人	1,000円	20名以上
シーズンパスポート	2,000円	記名者ご本人のみ

※未就学の子どもは無料です。小学生団体料金、シニア料金の設定はありません。  
※模擬坑道は階段の上り下りを伴うため、車椅子での見学ができませんので、車椅子の方とその介助者1名まで800円でご入館頂きます。

※障害者手帳・療育手帳をお持ちの方はご本人に限り1,000円でご入館頂きます。  
※クレジットカード、電子マネー（iD、QUICPay、交通系ICカード）が利用可能です。  
※旅行会社との団体契約・ガイド手配は、次の総代理店で承ります。

ピシッと夕張合同会社 -Visit Yubari G.K

【札幌予約センター】〒062-0908 札幌市豊平区豊平 8条 11丁目 3-13-130

FAX: 011-351-5355 MAIL: n-kanazawa@visit-yubari.com

担当: 金沢 (Mobile:080-4502-5341)

## アクセス



## 夕張市石炭博物館

〒068-0401 北海道夕張市高松7番地

TEL 0123-52-5500  
FAX 0123-52-5566

MAIL info-cm@soratan.or.jp  
URL https://coal-yubari.jp

2026

# 夕張市石炭博物館

Coal Mining Museum of Yubari



## ご来館いただいた皆さまへ

夕張市石炭博物館は、2018年のリニューアルオープン時より「生きるに向き合う博物館」をコンセプトとしています。これまでの夕張の歩みを後世に残し、また炭鉱とともにあった人々の人生を記録・保管し表現する場として生まれ変わりました。

全国でも数少ない「石炭」博物館として、夕張のことを外にアピールする「アンプ」、外の力を夕張に引き入れる「ポンプ」の役割を果たすため、博物館機能の充実を図り、地域の皆さんとの関わりを大切に、多くの人々に気軽に活用していただける施設を目指しています。

歴史を紐解けば、そこには一人一人の暮らしがあります。そこでどのように暮らしていたのか、どんな景色があったのか、ここ夕張で暮らした人々の歩みにも触れることで、自分自身の「生きる」に向き合うきっかけとなっただけであれば幸いです。

## 夕張市石炭博物館 概要

所在地	北海道夕張市高松7番地
建築主	夕張市
建築年	1980（昭和55）年
敷地面積	5,336㎡
建築面積	1,378㎡
延床面積	3,573㎡
展示空間	2階常設展示・地下展示室・模擬坑道
収蔵資料	約15,000点
設備	本館1階 エントランスホール 企画展示室BAN-HALL 多目的トイレ
	本館2階 会議室

夕張市石炭博物館は、地上2階鉄筋コンクリート造の本館と地下展示室、そして国登録有形文化財の炭鉱坑道「旧北炭夕張炭鉱模擬坑道」からなります。

本館1階には、誰でも気軽に入館できるよう、無料でくつろげるゾーンや各種催しが可能な多目的空間を設けています。

また、本館2階から地下へは、かつて炭鉱にあった立坑を模したエレベーターによって向かうことができます。

地下展示室および模擬坑道では、夕張にあった炭鉱の様子を本物の石炭に触れながら学ぶことができます。

指定管理者

炭鉱の記憶推進事業団  
特定非営利活動法人

2026

# 夕張市石炭博物館 館内案内マップ

## ①本館1階／明るいフリースペース

明るく開放的なエントランスホールには、館内唯一のトイレ（オストメイト対応）、図書コーナーや充電コンセントを備えた机もあり、休憩や調べものをする場所として自由にご利用ください。

石炭大露頭を発見した坂市太郎の名を冠した企画展示室 BAN-HALLでは様々な催事を行っています。

ミュージアムショップ、セルフcaféも是非ご利用下さい。



エントランスホール



本館2階  
本館1階

## ①本館1階

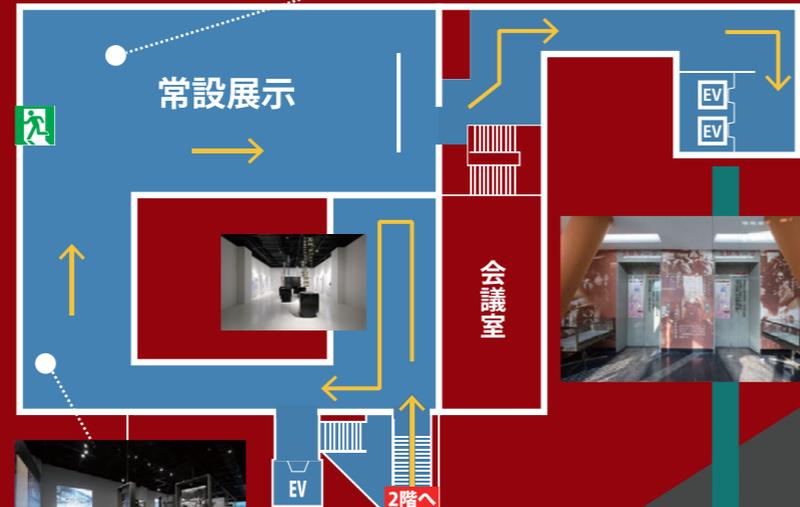


## ②本館2階／炭都の歴史に触れる

常設展示では、夕張がこれまで歩んできた歴史を時系列に沿って学ぶことができます。中央部には、最盛期の夕張の繁栄を知る手がかりとして、国土地理院の空中写真が床面に表示され、街並みや炭鉱施設を確認することができます。



## ②本館2階



本館2階  
常設展示へ



BAN-HALL (特別企画展の状況)

# 本物が持つ圧倒的迫力

本物の石炭層が見られる！

模擬坑道は、実際に使用されていた坑道の一部で、石炭層が見られる坑道としては、日本で唯一公開している坑道です。実際の石炭層を間近でご覧ください。

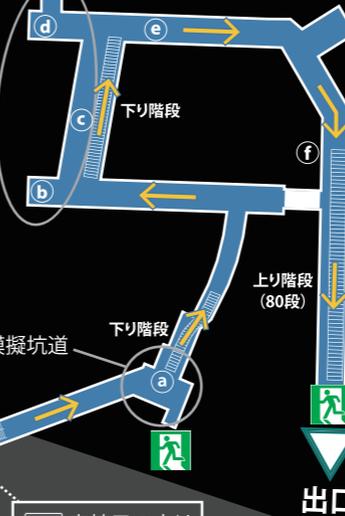


③ ロング切羽



④ ロードヘッダー

## ④ 模擬坑道



## ④ 模擬坑道／見学可能な炭鉱

地下の展示を抜けると、レンガ造りの入口が見えてきます。ここから国登録有形文化財「旧北炭夕張炭鉱模擬坑道」と呼ばれる、実際の石炭層がある本物の坑道に入ることができます。100年以上前に作られたこの坑道は、これまで炭鉱の新人教育や救護隊の訓練、また社会科見学や皇族の視察などに利用されてきました。



① 坑口



② ダンプローダ



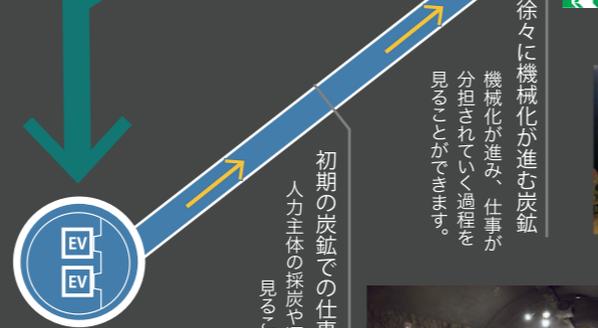
⑤ ゲート坑道



⑥ 鉄柱カッベ採炭

立坑エレベーターで  
地下1000m?へ!!

## ③ 地下展示室



初期の炭鉱での仕事  
 人力主体の採炭や運搬の様子を見ることができます。



徐々に機械化が進む炭鉱  
 機械化が進み、仕事が分担されていく過程を見ることができます。



ドラムカッター (映像で解説)

## ③ 地下展示室／臨場感あるジオラマと機械

地下に広がる展示空間では、マネキンを使ったジオラマや、操作していた時に実際に使用されていた機械が展示されており、わかりやすく採炭について学ぶことができます。

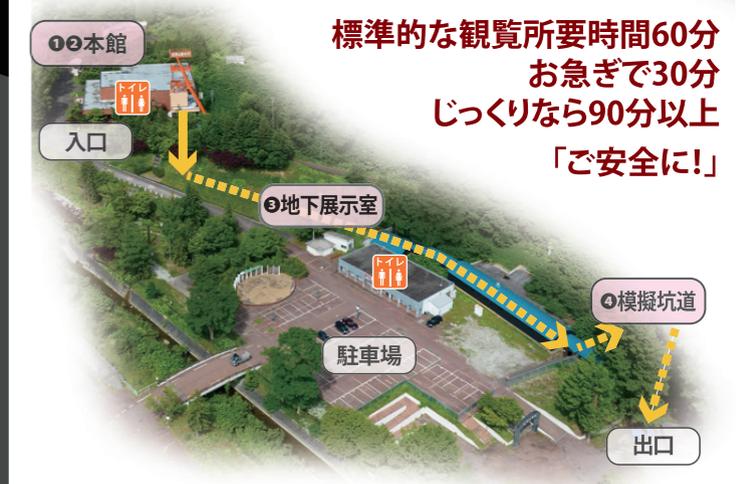
ここから模擬坑道

ドラムカッター

車椅子の方は  
こちらから  
駐車場へ

展示面積3,000㎡ 観覧ルート延長540m

標準的な観覧所要時間60分  
お急ぎで30分  
じっくりなら90分以上  
「ご安全に!」



出口を出ても見どころが!



天龍坑の坑口 (国登録有形文化財)



進発の像 (採炭救国坑夫の像：市指定文化財)



石炭の大露頭 (夕張の石炭大露頭：道天然記念物)